

京都府立医科大学附属病院 内分泌・糖尿病・代謝内科 通院中の患者様へ

「糖尿病患者におけるコホート調査研究」に関する調査へのご協力をお願い

今回、京都府立医科大学 内分泌・糖尿病・代謝内科は関連施設とともに、糖尿病合併症予防を目的とした疫学調査（※）研究を実施いたします。そのため、京都府立医科大学 内分泌・糖尿病・代謝内科を受診されている患者様の診療録（カルテ）に記載されております診療情報を学術調査目的に利用させていただきたいと考えています。

研究の目的

我が国の糖尿病患者数は、生活習慣と社会環境の変化に伴って急速に増加しています。糖尿病はひとたび発症すると治癒することは難しく、放置すると網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こし、末期には失明したり、透析治療が必要となることがあります。さらに、糖尿病は脳卒中、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）などの発症・進展を促進することも知られています。これらの合併症は患者様の生活の質を著しく低下させます。そのため、これらの合併症の進行を予防することは最重要課題です。

当院では、患者様の健康管理の手助けを第一の目的として日々の診療を行っております。同時に、疫学データを蓄積し、糖尿病患者の実態調査・研究を行うとともに、糖尿病合併症進行予防を目的とした経時的な研究を行い、今後の医療のために貢献していくことも大切な任務と考えております。このため、われわれは外来通院患者様に対し、疫学調査を実施させていただきたいと考えております。

研究の方法

- ・対象となる患者様について；平成25年4月以降京都府立医科大学 内分泌・糖尿病・代謝内科を受診された患者様が対象となります。
- ・方法について；患者様の診療録（カルテ）より臨床検査値や既往歴、使用薬剤などを収集し、分析します。
- ・資料の管理について；情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

また、ご協力いただけない場合には、ご遠慮なくお申し出ください。

（※）疫学調査；集団を調査し、病気の原因と考えられる要因と病気の発生との関連性について統計的に調査すること。

研究資金及び利益相反について

利益相反とは、寄附金の提供を受けた特定の企業に有利なようにデータを操作する、都合の悪いデータを無視するといった、企業等との経済的な関係によって、研究の公正かつ適正な実施が損なわれているのではないかと第三者から懸念される状態をいいます。本研究に関する利益相反については、京都府公立大学法人の利益相反に関する規程、京都府立医科大学の臨床研究に係る利益相反に関する規程等にしがって管理されています。

この研究は、京都府立医科大学内分泌・代謝内科学教室の運営交付金（教室費）により実施します。

また、本研究のデータベースのシステム構築業務を委託するS.I.P社は研究担当者の実弟が経営する会社ですが、本研究を公正かつ適正に実施することをお約束します。

連絡先：京都府立医科大学 内分泌・糖尿病・代謝内科
電話：075-251-5505（担当；牛込）